

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202254		
法人名	(株)会社 イッセイ		
事業所名	グループホーム平和 (第2ユニット)		
所在地	静岡県清水区西久保1丁目13-26		
自己評価作成日	令和2年 11月 19日	評価結果市町村受理日	令和2年 12月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和2年 12月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた町で最期まで人として暮らしましょうをスローガンに具体的な理念追及を目標として今年度は行うつもりでございました。しかし年頭よりコロナ禍での生活が始まり感染リスク排除のため生活に規制が生じてしまいました。「コロナを持ち込まない」限られた中での感染対策を講じて感染症を起した際の対処等まで浸透させてきました先が見えないウイルスとの戦いは運営リスクが大きいのですが、今やることをやっていく毎日を過ごしています。又、面会制限や身体の不活性化による廃用症候群の進行防止のため感染防止対策を講じたご家族との面会や近隣のスーパーへの買い物、屋内でできる季節に合わせた創作活動やレクリエーションを行っています。

ホームは閑静な住宅地にある。大きな三角屋根が特徴的な白壁のスッキリした外観である。建物には「住み慣れた地域で最期まで暮らしませんか」と理念に通じる思いを電光掲示板でも伝えている。中庭の中央にヤマボウシのシンボルツリーがあり、四方にはベンチが置かれ、くつろぐスペースになっている。リビングは天窓から明るい陽射しが差し込み、木の温もりが感じられる。カウンター越しのキッチンからは匂いや音等五感が感じられる。食事作りでは入居者ができるだけやれることをして、残存機能を活かすことを常に意識している。コロナ対策が優先となり、日常の変化にその人らしさを失っていくのではないかと管理者は危惧しており、早く日常に戻ることを切に願っている。毎週1回定例となっている音楽療法の時間は、コミュニケーションがとれ向き合うことができ、穏やかな時間となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で最期まで人として暮らしましょう。人として尊い存在であることを具体的に介護場面での振り返りを行いながらやってきました。	ホームの外からも周知できるよう「住み慣れた地域で最期まで暮らしましょう」と電光掲示板で表記されている。理念が抽象的なため今年度は「利用者さんを大事にしましょう」と進めてきたが、管理者は職員の理解が難しいと感じている。	理念に基づく目標を具体的に、更に個人ごとに目標を立てるなど実行できる工夫をすることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の地の神様である神社の総代長を長年ボランティアで行っています	コロナ禍のため地域の方々には、4月に地域交流会の延期の通知をし、介護職員の予防対策や家族面会の中止等ホームの現状を伝えている。毎年好評の平和まつり等活動ができないなか、1月にデイサービスと協力し地域住民も参加してAEDの講習会を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣に独居で落ち着きなく活発に動かれる認知症の高齢者の見守り隊の役目をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は、運営推進会議は2回行われました。コロナ禍での生活の中で地域とのかかわりが話題になりました。	今年は1月と10月に実施している。S型サービスのボランティアの方や民生委員、地域包括支援センター職員等が参加している。ホームの現状を細かく報告している。また、具体的な課題を挙げて参加者から意見も聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加は、今年度は難しく協力関係の構築までに至りませんでした。4月に決まっていた市から派遣される介護相談員もお名前を伺っただけで一度も来所はされませんでした。市側も今年は施設訪問はしないとのことでした。市に出向くと書面で郵送かメールでやりとりをするようお願いされました。	コロナ禍で市担当者との連絡調整はメールや電話での対応となり、双方の訪問はない。介護保険に関する確認や相談等も電話で行っている。介護相談員の訪問もなく	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束とは・話し合いを持つときは拘束の意味を具体的に話題としています。玄関横にも掲示しています。基本は玄関の施錠はしていません。	入居者が離脱し探し回った事例があるが、その後も玄関の施錠はしていない。業務の流れでやむを得ない時のスピーチロックがあった際には、その場で注意するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年始めに高齢者虐待防止についての講習会がありました。中止になりました。以後講習会の用途はたっていません。手足、体幹の内出血斑は職員間で情報共有しています。身体介護に注意を払いましょうということで注意喚起をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての講習会は行ったことがあります。任意後見人を利用されているご利用者が法定後見人の利用に移行する際に後見人と何度か話し合い(財務力、法定後見の必要性)家裁の調査官との面接の立ち合いを行いました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ禍での入所がありました。独居の母親の在宅継続が難しくなりましたが身元保証人である長女様が県外に住み母親との関係も悪化している中での入所となりました。電話でのやりとりをしながら契約を交わすことになりました。長女様の不安、今までの経緯を傾聴しながら行うことができました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とご利用者が歯科診療を受けたい希望がありご家族が、つてを頼りに歯科医を探し診療を受けたことからホーム全体で希望があれば同歯科医が診てくださるようになりました。	介護記録は一日の気づきを職員が記入し、1ヶ月分の利用者の介護記録を家族に郵送し情報提供している。現在は電話連絡の折り、希望や要望を聴くようにしている。5名の方が後見人制度を利用しているが、連絡調整が細やかにできている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常勤は年2回賞与支給時に代表者との面接を行い代表者から管理者に伝えられている。管理者は常に現場に入り職員の声に耳を傾けるようにしています。	年2回の個別面談は異業種の代表者と管理者で行っている。具体的には、職員の希望休や残業時間の等働き方改革を意識し希望を聞いている。また、利用者のベッド調整できなものから介護用ベッドに替えたことで、働きやすさに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者が昇給時に勤務状況、実績等を考慮して昇給率につなげるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの実力は認知症の周辺症状への対応力の差を力量として評価しています。力量の高い職員へは意見を反映できるような配慮をして他職員への周知、協力をしていただくことで対応力の向上を目指しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍での介護就労、交流する機会や研修会の参加はありませんでした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前にご家族との面接、担当ケアマネージャーからの情報を得てアセスメント、課題抽出により暫定プランを立てます。目標は安心して暮らせるようになることです。事前にご本人への面接もあります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	独居高齢者で県外に在住するご家族は県外に在住していること自体が困っていること、不安な事でした。来所せずにサービスの導入になるよう電話でのやりとりを続けました。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	猛暑の中での引きこもり独居の状況でした。施設入所をご家族が決断しました。ご利用者は、入所を頑強に拒否していました。何とか外に連れ出すことに成功したので1日だけのお泊りということで着の身着のまま連れてきてもらいました。何も持たない入所ということになりました。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お血洗いは、ご自分の仕事とさせていただきご利用者がいます。食事が終わるとご自分から台所に入り洗い物をして下さいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	歯科診療に受診するには困難を要するご利用者が多い中でお1人のご利用者のご家族が歯科医を探し訪問歯科診療につなげることができました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	信仰されている宗教の新聞を最近まで購読されていましたが認知症の進行とともにご自身から読むことがなくなってしまいました。	コロナ禍で家族の訪問もなくなった入居者に対し、玄関先での定期的な面会を提案し、日常が戻り元気になられた事例がある。また、家族の訪問の際は居室でゆっくり過ごして頂いている。知人の電話により話をする機会となっている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に閉じこもりがちだった心身の不安定なご利用者がいます。活発に動かれるご利用者に横に坐っていただき会話が生まれるとフロア一席で過ごされることが多くなり不安定さも軽減しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	夫がホームでなくなり独居になった近隣に住む妻がいます。ホームの前を通るのを見かけては声をかけています。昨年までは施設が経営するデイサービスの無料体操教室に通ってくださったのですが現在は休止になってしまっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時から何度も希死念慮を訴えるご利用者がいます。入所当初はお部屋に引きこもり眠り続けていました。しかし見守りの中での生活に慣れた頃に生活意欲を高めるような声掛けを行いましたところ庭掃除や宅配のものを職員と一緒に片づける等です	日頃の生活で職員は希望を聞くようにしている。入居当初より引きこもりや暴言等が見られた方に、職員の細やかな対応や見守りでどんどん変化し、一緒に作業をするまで心開かれたケースに、管理者はケアの醍醐味を感じている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者とフロアのテーブル席で雑談しながら生活環境を聞き出し情報として職員に伝達しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとり、日々のご様子を記録に残し職員間で共有している。ミーティングでは現状報告やサービス内容の見直し、提案を出し合い実践している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まさに現状に即した生きたサービス内容を計画書として作成するために常に職員からの聞き取りや課題に対する意見を聞きながら作成しています。ご家族も面会回数が減ってしまったなかで手紙で意見を募ったりはしています。お会いできるご家族にはお話するようにしています。短時間ですが・・・	介護計画は介護支援専門員が行い、見直しは長期3年、短期は半年としている。職員の意見は概ね普段のケアの時間で聞いているが、時にはBS法(プレーンストーミング)により意見を出し合い、内容をより明確にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は時系列のように細かくはしていませんが1日のヒトコマとして個々の介護記録には記入しています。職員間の情報共有としては業務日誌に記入して引き継ぎをしています。記入したものを閲覧した場合は捺印してもらっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、県外から面会を申し込まれても遠慮していただいています。市内にいられて2週間後の面会は無理なので面会者は、玄関口でリモートを使いご利用者とお話されています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にはボランティアや民生員が近くに居住しているのでその方たちの親の代になるご利用者がいて気軽に声をかけていただいたり会いに来てくださっていましたが、今年はそれもままならない状況にあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科に関しては往診医で対応しています。他の科の場合はオンラインでご家族が受診を代行していただいています。	利用者全員協力医としているが、入居前からの総合病院に家族が同行する方もいる。月1回協力医により訪問診療があり、その際は薬剤師も同行する。歯科医も治療や歯垢除去の他、のみ込み機能にも影響するため、定期的に訪問している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師です。介護職は、体調観察を指示されていて異常、異変があれば看護師に報告が来ます		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院はなかったです		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のガイドラインがあり入所時に同意を頂いています。重症化に対しては看取りも含めて事業所や往診医でできることを十分に説明し新たに介護サービス計画書を作成し同意を頂いています。	入居時はもとより状態の変化に合わせて要望を聞き取っている。往診としているため、状態の変化には順応している、今年1名の看取りを行っている。職員は落ち着いており、むしろその場に立ち会いを希望する職員さえいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員の3分の2以上は5年以上の経験が同事業所であり様々な経験をしています。急変時、事故時の対応、看取り時の対応については実践力がついています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年の様に地域の防災訓練への参加、施設での自主防災訓練は夜間を想定して訓練を年2回は行っています。	防災訓練は年2回実施している。地域住民も高齢化になるなか、自治会にも加入しているため若い方の協力体制もある。敷地内に防災倉庫もあり、必要な水、食料、オムツ、日用品等が3日分はある。倉庫以外にホーム内にもカンパンや日用品は保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室を訪問する際は必ず声掛けをしてから入室します。朝・就寝前の更衣は居室でしていただきますが、ご利用者のADLに合わせ準備、声掛け、見守り、介助をさせていただきます。	居室では扉を開け放すこともあるので、暖簾を入口につけることで対応している。利用者情報の管理は高い位置の棚に保管している。衣類の着脱は必ず居室で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の想いを先走ってしゃべらず傾聴するようにしています。基本は、ご自分でできることはやっていただけるよう声掛けや見守りを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御自分の部屋で本や新聞を読まれて過ごされる方もいてフロアにご自分の意思で出てこられお茶を飲まれてます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えは職員が行い季節に応じた服装を支援しています。その日の服装はご自身に選んでいただけるようにしています。ご自分で着替えられる方も同じような服装になってしまいがちなので職員が気を付けて筆筒への仕舞い方に配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁が使える方には野菜切、使えない方にはスライサーを使って野菜の皮むき、ゆで玉子の殻むき、玉葱の皮むきをお願いしている。フロアのテーブルの上でできた料理の盛り付けをお願いしたり食後台所で食器洗い、拭き上げ等出来ることをやっていただいている。	利用者の好みも入れ職員が1ヶ月の献立を作成している。食事の配膳や後片付け等入居者の残存能力を活かしている。食材は目の前のスパーで調達したり、肉屋、米屋が届けている。ホットケーキなど手作りおやつも楽しみながら作って好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下機能の低下している方には食材によってブレンダー、刻み(粗刻み、細い刻み)、とろみつけなどで食べやすいようにしています。午前午後の水分補給時は、むせやすい方にはトロミをつけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや介助により全員の口腔ケアを行っています。ADLや口腔の状況により歯間ブラシを介助で使い歯の温存のためのケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御自分で行かれる方もいますが、定時(起床時、毎食後、就寝前)にトイレの声かけ、誘導を行っています。施設で使っている排泄確認表があり個々のご利用者の排泄パターンを把握しています。	個人ごと確認表によりパターンを把握し、タイミングをみて声かけをしている。夜間は睡眠を妨げないよう長時間用のリハビリパンツや厚手のパットで対応している。夜間のみポータブルトイレを1名の方が使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	対策としては、ホームで手製のヨーグルトを作り繊維の多いバナナを混ぜたりお汁粉を作ったりしている。食事の副食としてサツマイモ煮、ヒジキ煮など海藻類、干しシイタケなどを食材として取り入れるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴を希望される方は居ません。施設では最低週3回は入浴していただいています。酷い拒否にあうときもあり声掛けの職員を替えたり時間をずらして再度声掛けすることもあります。あまりひどいと翌日に延ばしたりと様子を観ながら行っています。	週2回15時頃に行っている。一人ひとり入浴剤を変え楽しんでいる。鍵をかけてひとりゆっくりされる方が1名いるが、見守り対応している。入浴しない日も必ず着替えを行い、清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は年齢や介護量、その日の状態で眠気の強い方には居室で休んでいただいています。昼夜逆転予防のために夕方は熟睡してしまわないようなるべくフロアーで過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者それぞれの介護記録のファイルに内服手帳のコピーが入れてあり内服の変更の際には業務日誌に記入、症状変化に際しても報告をしてもらえるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中は、トランプ、ゲームをしたりご利用者と一緒に準備し夏祭りや誕生会をやりました。(誕生会、夏祭り、敬老の日のお祝い)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は、コロナ禍にあり外出やご家族との面会にも規制がかかっています。	以前は季節ごと計画を立てての外出をしていたが、コロナ禍で外出が難しいため、広いホーム内を歩くことや中庭での外気浴、近くのスーパーの買い物等やれることで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていらっしゃるご利用者は少数です。しかし使うということはありません。欲しいものは立替えて職員が購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っていらっしゃる方は居ますがご自分からかける時は職員がお手伝いします。外部からかけてくださってもご自身から出ることは殆どありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内の壁には季節ごとの飾り付けがされています。飾り物をご利用者と一緒に作ることもあります。夜間オムツ交換をさせていただいたりする方の居室の匂いに注意し排泄臭を良い匂いに変えるノーマットを設置しています。	中庭の中央にヤマボウシのシンボルツリーがあり、四方にはベンチが置かれている。リビングは天窓から明るい陽射しが差し込み、木の温もりが感じられゆっくり時間が流れている。カウンター越しのキッチンからは匂いや音等五感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席では傾きが酷く顔を上げることができずうつぶせのような状況で涙も酷く同席の方ともコミュニケーションが取れず周囲から非難される方がいます。ソファ席に移っていただいたらテーブルがない分顔の上りも気にならなくなり一人で共有空間の中でゆっくりと過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ここでの集団生活になじめるかとても心配だったご利用者の入所に際し以前に暮らしていた独居での生活家具を持ち込みました。施設に来て暮らしになれるような居場所作りを行いました。	居室は7.5畳から9畳の広さで、パイプハンガーや整理タンス、椅子やテレビ、ラジオ、仏壇等思い入れのあるものをそれぞれ持ち込まれている。入居前の暮らし方を大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の間違いを起こさないようトイレ、浴室、各お部屋の表札が掲げてあります。トイレやフロア内等バリアフリーで手すりが設置されていて移動が自由に出来ています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202254		
法人名	(株)会社 イッセイ		
事業所名	グループホーム平和 (第1ユニット)		
所在地	静岡県清水区西久保1丁目13-26		
自己評価作成日	令和2年 11月 19日	評価結果市町村受理日	令和2年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた町で最期まで人として暮らしましょうをスローガンに具体的な理念追及を目標として今年度は行うつもりでございました。しかし年頭よりコロナ禍での生活が始まり感染リスク排除のため生活に規制が生じてしまいました。「コロナを持ち込まない」限られた中での感染対策を講じて感染症を起こした際の対処等まで浸透させてきました先が見えないウイルスとの戦いは運営リスクが大きいのですが、今やることをやっていく毎日を過ごしています。又、面会制限や身体の不活性化による廃用症候群の進行防止のため感染防止対策を講じたご家族との面会や近隣のスーパーへの買い物、屋内でできる季節に合わせた創作活動やレクリエーションを行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和2年 12月 9日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で最期まで人として暮らしましょう。人として尊い存在であることを具体的に介護場面での振り返りを行いながらやってきました。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の地の神様である神社の総代長を長年ボランティアで行っています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣に住む独居で落ち着きなく活発に動かれる認知症の高齢者の見守り隊の役目をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年、運営推進会議は2回行われました。コロナ禍での生活の中で地域とのかかわりが話題になりました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加は、今年度は難しく協力関係の構築までに至りませんでした。4月に決まっていた市から派遣される介護相談員もお名前を伺っただけで一度も来所はされませんでした。市側も今年は施設訪問はしないとのことでした。市に出向くと書面でのやりとりで郵送かメールでやりとりをお願いされました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束とは・話し合いを持つときは拘束の意味を具体的に話題としています。玄関横にも掲示しています基本は玄関の施錠はしていません		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年始めに高齢者虐待防止についての講習会がありました。中止になりました。以後講習会の用途はたっていません。手足、体幹の内出血は職員間で情報共有しています。身体介護に注意を払いましょうということで注意喚起をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての講習会は行ったことがあります入所時より法定後見人がいらっしゃるご利用者がいます。しかしご利用者自身が後見人への暴言が酷いため仲介役になっています。職員は後見人については理解しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定の際にはご家族に詳細を説明し質問や疑問点にお応えできる体制にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお手紙を差し上げる際は必ずご意見、ご要望、ご質問等にお応えしますという一言を伝えるようにしています。ご利用者やご家族から伺ったことは、職員に書面で伝えることもあります。運営推進会議で話題としてあげることもあります。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常勤は年2回賞与支給時に代表者との面接を行い代表者から管理者に伝えられている。管理者は常に現場に入り職員の声に耳を傾けるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者が昇給時に勤務状況、実績等を考慮して昇給率につなげるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの実力は認知症の周辺症状への対応力の差を力量として評価している。力量の高い職員へは意見を反映できるような配慮をして他職員への周知、協力をしていただくことで対応力の向上を目指しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍での介護就労、交流する機会や研修会の参加はありませんでした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前にご家族との面接、担当ケアマネージャーからの情報を得てアセスメント、課題抽出により暫定プランを立てます。目標は安心して暮らせるようになることです。事前にご本人への面接もあります		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自営業で家族総出で就業しているお宅があります。認知症のご利用者を1人で置いておけないことが1番の困りごとです。施設に預けてしまう心苦しさや後ろめたさを背負っているお気持ちを傾聴するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本年は入居者がいなかったためサービス導入時の支援の経験はありませんでした。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を作る際にお手伝いとしてご自分が持ってこられた料理包丁を使い野菜をカットしていただいています。他に食器拭きや洗濯物をたたむお手伝いもしていただきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍での面会禁止を2か月継続したことでご利用者の1人が心身の不調をきたしました。面会規制の中でご家族に面会を許可したところご利用者は「家族が来ないから捨てられたと思った」とご家族に会えて安堵していました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	殆ど身寄りのないご利用者は、入所前に居た介護者は逃げていきましたが唯一お1人の方は、訪ねてきてくださいます。今年は面会もままならずなじみの場所に行くこともできていません。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所当初は喧嘩もありましたが、今はご利用者の悩み事を聞いていただける関係にある方たちがいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	10年以上前にサービスが終了したご利用者のご家族が、近況報告に1年に1回くらいは訪ねてきてくださいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外を徘徊していた盗られ妄想が酷いご利用者がいます。落ち着かなくなるとバッグを持って出かけようとしています。職員の助言を全く聞き入れない状況になってしまい感情も不安定になります。買い物ということで外に出るようにしたら外の空気を吸うことで気分が晴れることもあります。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者とフロアーのテーブル席で雑談しながら生活環境を聞き出し情報として職員に伝達しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者1人ひとり、日々のご様子を記録に残し職員間で共有している。ミーティングでは現状報告やサービス内容の見直し、提案を出し合い実践しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まさに現状に即した生きたサービス内容を計画書として作成するために常に職員からの聞き取りや課題に対しての意見を聞きながら作成しています。ご家族も面会回数が減ってしまったなかで手紙で意見を募ったりはしています。お会いできるご家族にはお話しするようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は時系列のように細かくはしていませんが1日のヒトコマとして個々の介護記録には記入しています。職員間の情報共有としては業務日誌に記入して引き継ぎをしています。記入したものを閲覧した場合は捺印してもらっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、県外から面会を申し込まれても遠慮していただいています。ご家族が県外に在住し母の日に送られたプレゼントをご本人ともども写真に収め送らせていただきました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にはボランティアや民生員が近くに居住しているのですがその方たちの親の代になるご利用者がいて気軽に声をかけていただいたり会いに来てくださっていましたが、今年はそれもままならない状況にあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科に関しては往診医で対応しています。他の科の場合はオンラインでご家族が受診を代行していただいています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師です。介護職は、体調観察を指示されていて異常、異変があれば看護師に報告が来ます		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院はなかったです。総合病院に定期的に通院しているご利用者が腰痛が酷くなり整形受診になりましたが現在の療養の様子を情報提供させていただきました。ご利用者に高次脳機能障害があり病院の医師とトラブルになったことがあるので正確な情報を伝えました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のガイドラインがあり入所時に同意を頂いています。重症化に対しては看取りも含めて事業所や往診医でできることを十分に説明し新たに介護サービス計画書を作成し同意を頂いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員の3分の2以上は5年以上の経験が同事業所であり様々な経験をしています。急変時、事故時の対応、看取り時の対応については実践力がついています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年の様に地域の防災訓練への参加、施設での自主防災訓練は夜間を想定して訓練を年2回は行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室を訪問する際は必ず声掛けをしてから入室します。朝・就寝前の更衣は居室でしていただきますが、ご利用者のADLに合わせ準備、声掛け、見守り、介助をさせていただいています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誘導や声掛けの難しいご利用者がいます。人を寄せ付けず暴言で返してくるご利用者の行動を静観せざるを得ない場面が多かったです。しかし時間を経てご利用者から平常心で頼まれたりお礼の言葉が出るようになりました。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御自分の部屋で本や新聞を読まれて過ごされる方もいてフロアにご自分の意思で出てこられお茶を飲まれてます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えは職員が行い季節の応じた服装を支援しています。その日の服装はご自身に選んでいただけるようにしています。ご自分で着替えられる方も同じような服装になってしまいがちなので職員が気を付けて筆筒への仕舞い方に配慮を要します。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁が使える方には野菜切、使えない方にはスライサーを使って野菜の皮むき、ゆで玉子の殻むき、玉葱の皮むきをお願いしている。フロアのテーブルの上でできた料理の盛り付けをお願いしたり食後台所で食器洗い、拭き上げ等出来ることをやっていたいっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の摂取状況を観ながら刻み、ブレンダー、1口サイズにしています。又、大量に口の中にほおばらないように小さなお椀に小分けを職員が行いながらご自身で食べていただいているご利用者も居ます。水分に関してはコーヒーやココアをお出しすることで摂取量アップにつながっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや介助により全員の口腔ケアを行っています。ADLや口腔の状況により見守り、介助させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御自分で行かれる方もいますが、定時(起床時、毎食後、就寝前)にトイレの声かけ、誘導を行っています。施設で使っている排泄確認表があり個々のご利用者の排泄パターンを把握しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	対策としては、ホームで手製のヨーグルトを作り繊維の多いバナナを混ぜたりお汁粉を作ったりしている。食事の副食としてサツマイモ煮、ヒジキ煮など海藻類、干しシイタケなどを食材として取り入れるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を希望される方は居ません。施設では最低週3回は入浴していただいています。酷い拒否にあうときもあり声掛けの職員を替えたり時間をずらして再度声掛けすることもあります。あまりひどいと翌日に延ばし様子を観ていきます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は年齢や介護量、その日の状態で眠気の強い方には居室で休んでいただいています。昼夜逆転予防のためにも夕方は熟睡してしまわないようなるべくフロアで過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者それぞれの介護記録のファイルに内服手帳のコピーが入れてあり内服の変更の際には業務日誌に記入、症状変化に際しても報告をしてもらえるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中は、トランプ、ゲームをしたりします。又、ご利用者と一緒に準備し夏祭りや誕生会をやりました。(誕生会、夏祭り、敬老の日の祝い)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は、コロナ禍にあり外出やご家族との面会にも規制がかかっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をもつてらっしゃる方もいますが、盗られ妄想が酷くお金を使ったことから不穏になり落ち着かなくなってしまう。おかねを使うことの大切さを支援することが難しいです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者自らが電話することはありません。入所前はご家族や大切な人に5分おきに電話をしましてご家族が困り果てていました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内の壁には季節ごとの飾り付けがされています。飾り物をご利用者と一緒に作ることもあります。居室内はご利用者によっては夜間オムツ交換をさせていただいたりする方、換気扇だけが頼りのトイレの匂いを解消するため尿臭を良い香りに変えるノーマットを設置し職員にも好評です。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	車椅子を自走しながら隣のユニットにお話に出掛けたり感情が不安定になると隣のユニットに出掛け他ご利用者と談笑することで感情が安定される方がいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事以外居室で安まれているご利用者には、花が咲き季節の樹木が見えるようにベッドを配置しています。視力が弱いご利用者にはベッドとテレビの位置を考慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の皮むきや乾いた洗濯物をたたむときは出来そうなご利用者になるべく大勢の方を誘ってやっていただいています。バリアフリーで手すりも付いているので自由に動かれているご利用者がいます。		